



新聞圖會

第三

号



丹波国氷上郡本郷村親代々

實ニ天罰ハ恐るべし 祝誕生會の夜ニ  
 當リ大阪近在本庄村ニ人殺シ有殺されし  
 京の徳松と云壯年之其場ニ有し行と云  
 女を糾問有し小梅ニ縁ある北野の  
 熊けんと云私の情郎が殺しありと  
 と云故熊を責れが苦痛不堪と  
 竹と徳とが違華洲の上で  
 轉ぶを見附煩悩止むと  
 寺ニ掛まると白状し  
 就冥處とあるべきを  
 竹の相嫉怪しられが  
 大困ととき問落し  
 熊を誣し極まりて  
 熊ハ命助かりぬ然る小竹ハ其日あり痘と  
 蠱毒とが同殺して痛死の忌日ニ痛感の願ハ  
 引渡されり此頃ハ淨玻璃の鏡より罪の次第  
 を明白あらんと冥府の電信待との事々  
 竹が生れ丹波国氷上郡本郷村親代々



丹波国氷上郡本郷村親代々

おり平三

舟水翁 都鳥

夫婦あり

上下の 糊

自由の

夫の家を

脱走し

親の罪を

報り

報入る

親の罪を

